



宗像市民図書館



市民図書館では、子どもの時から本に親しんでもらうため、おはなしボランティアによる「おはなし会」を開催しています。参加無料です。

- 参加した人からは、こんな声が寄せられています。
- ▽わらべうたを知らなかったが、おはなし会で歌ってみると子どもが楽しそううれしかった
- ▽おはなし会でわらべうたを歌うと、他の子の楽しそうな様子もあって、家でする時よりも子どもがいい反応を見せる
- ▽朝起きる時やお風呂に入る時、眠る時など、生活に取り入れやすいわらべうたをたくさん教えてもらった
- ▽1歳前ですが、絵本が大好きになった
- ▽初めて参加したが、子どもが楽しそうな笑顔を見せた。また参加したい
- ▽ボランティアの人たちから親切に遊び方を教えてもらえてうれしい

【赤ちゃんのおはなし会】

- 0歳児と保護者が一緒にわらべうたや絵本を楽しみます。
- 日時 毎週木曜日（最終週を除く）、11:00~11:30、11:30~12:00
- 会場 えほんのへや（市民活動交流館内）
- 担当 おはなしボランティア「ととけっこう」

【小さい子のおはなし会】

- 就学前の子ども向けのおはなし会です。
- 日時 毎週金曜日、11:00~11:30
- 会場 えほんのへや（市民活動交流館内）
- 担当 おはなしボランティア「おはなし あのね！」



わらべうたを楽しむ親子

【おはなし会】

絵本の読み聞かせやパネルシアターなどを実施します。

- 日時 第2土曜日、14:30~15:00
- 会場 えほんのへや（市民活動交流館内）
- 担当 おはなしボランティア「ストロベリーランド」



絵本に興味津々の赤ちゃん

- 日時 第4土曜日、11:00~11:30
- 会場 旧アクスス玄海図書館
- 担当 おはなしボランティア「お話げんかい」

■問い合わせ先 市民図書館 ☎(37)1321

世界遺産への道 第29回

みなさん、神島を知っていますか。三重県鳥羽市と愛知県渥美半島の中ほどにある丸い島で、現在500人ほどの島民が生活しています。この島も沖ノ島と同様、古代に航海の祭祀（さいし）が実施されていたといわれる島です。今回は、神島を視察した時のことを紹介します。

視察は3月23日に実施。この日は、北風が強



神島の街並み

島内は、昔ながらの集落景観が保たれ、民家と

沖ノ島と神島の比較

吹いていました。鳥羽の佐田浜港から出航し、約40分かけて島に向いました。島に近づくにつれて波はうねりに変わり、

民家の間の細い路地を登って集落にある八代神社に向かいました。この神社には、島から出土し

たといわれる神宝が蔵に奉納されています。写真撮影は禁止されていますが、現物を直に見ることができました。

神宝の時代は、頭椎大刀（かぶつちのたち）や画文帯神獸鏡（がもんたいいしんじゅうきょう）など、一部に古墳時代の資料が含まれていました。

これらの神宝は、島の北東側にある崖下の砂浜から出土したという文献もありますが、詳細はよくわかっていません。

望める場所、険しい崖が続く、当時はおそらく足場の悪い場所であったと考えられます。

沖ノ島には、祭祀をした場所や出土状況、祭祀行為の変遷などがほぼ完全に残っていますが、神島は出土状況が定かではありません。今回の視察で、難破船からの持ち込

みではないかとも考えましたが、広く祭祀品として知られているものばかりというので、今後は専門家による比較研究を実施していきます。

世界遺産登録推進室 問い合わせ先 ☎(36)1372

宗像の金鉱山 ところが、昔、宗像が金採掘でにぎわっていた頃があります。その一つ、河東鉱山（福岡県）は、江戸時代に黒田藩の宗像金山として開発されました。昭和4年頃には、肉眼で金と認められるものも出土したそうです。

一般に金鉱山というには、1000キログラムあたり0.5グラムの金が産出しなければ採算が合いません。さらに、人間の目で金鉱石中に金が確認されるのは1000キログラム



神宝が見つかった場所

今回は金（きん）にまつわる話です。金は古くから人類と関わりが深い金属として、紀元前3000~4000年代に使われ始めたといわれています。希少性と永遠の輝きで、世界の人々を魅了し、資産的価値は今日でも変わりません。

わが国でも、紀元57年に漢（中国）から倭（日本）へ送られた「漢委奴国王」の金印以降、人々の好む

現在、日本の金資源の約47パーセントが九州にあることがわかっています。特に1980年代以降は、鹿児島県の菱刈（ひしかり）鉱山が突出し、わが国トップの金産出量を誇る九州地区です。

ただし、鹿児島県や大分県、長崎県が金鉱床分布の中心で、北部九州に金鉱山はほとんど見あたりません。

時間旅行 ムナカタ 第2回 金と人類

金が出た！ 宗像は黄金のまち 貴金属として珍重され、装身具や刀の装具・馬具などに用いられてきました。



鉱石を砕く「金ひきうす」

九州は黄金の島 現在、日本の金資源の約47パーセントが九州にあることがわかっています。

鉱山坑道を発見 孔大寺山麓で進められていた砂防ダム建設工事現場で平成20年11月、金銀などを採掘していたと推定される坑道の入り口跡を発見しました。

夢の跡 宗像のゴールドラッシュは採算性の問題などで衰退し、昭和40年代には全て終わりを迎えました。上八区には往時をしのぶ旧跡の一つに、山の神と呼ばれる小さな祠（ほこら）があります。